

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380291

研究課題名(和文) 地域資源を活用した地方農山村の知識経済化政策に関する研究

研究課題名(英文) Study of Policies for Rural Knowledge Economy Using Regional Resources

研究代表者

佐無田 光 (Samuta, Hikaru)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：80345652

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、農山村の地域資源を基礎にした地域振興の課題に対して、条件不利地域における知識集約的なサービス工程の導入という観点から、資源開発・流通管理・人材調達を統合した地域マネジメントの政策理論の開発を試みた。地域資源を活かした事業を作り出していく「政策工程」のデザインを想定し、地域資源の基盤となる自然環境や商品流通に関する学習過程、地域外からの知識の持ち込みによるローカルフードシステムの再構築、地域産業の現状把握を踏まえた利害関係者による事業創出実験、といった諸工程を実証的に検証した。

研究成果の概要(英文)：This study was made to theorize regional revitalization policies in the rural and disadvantaged area from the point of view of the introduction of knowledge-intensive service process including regional resource development, distribution management and talent supply. We validated some designs of policy process: (1) leaning process by residents about natural ecosystem and supply chain for utilization of regional resources, (2) reorganizing local food system by carrying-on knowledge from outside the region, and (3) experiments of business incubation by local stakeholders that enforce regional inter-industrial relationship.

研究分野：地域経済学

キーワード：6次産業化 地域資源 地域ブランド ローカルフードシステム 地域政策デザイン 石川県

1. 研究開始当初の背景

地域振興の方法として近年注目されている地域資源アプローチの特徴は、大量生産・大量流通の論理とは異なる、地域的個性に対応した多様な生産・流通の仕組みにある。これは、大量生産モデルに支えられてきた戦後日本の地域開発においては軽視されてきた観点であるが、21世紀に入って、中小企業地域資源活用促進法(2007年)や、農商工連携促進法(2008年)、六次産業化法(2011年)などが相次いで施行され、農林水産品、産地の技術、観光、伝統文化など地域資源を活用した新事業や連携事業を支援する諸制度が整備されてきた。本研究は、地方農山村のおかれた後発性の難しさを十分考慮に入れながら、知識経済段階の競争に対応した地域資源アプローチの成立要件を解き明かすことで、現代の農山村振興の具体的な地域政策論に寄与しようとするものである。

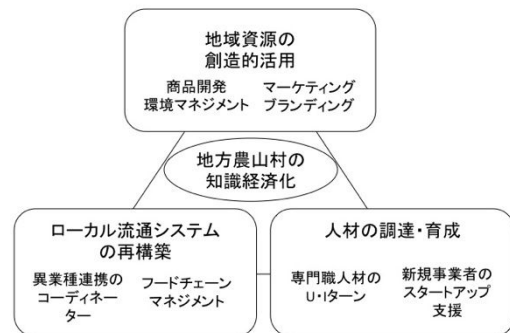
2. 研究の目的

本研究の目的は、資本や人材の乏しい条件不利地域の地方農山村における、地域資源を活かした地域振興の政策論を開発・体系化することである。地域の歴史的・自然的個性に基づいた農商工連携や6次産業化が注目されているが、本研究は、地域資源の商品開発、環境マネジメント、マーケティング、流通戦略、異業種間のコーディネート、人材の調達・育成など、「ものづくり」の前後にあるサービス工程の高度化(=農山村の知識経済化)に焦点を当て、それらの体系的な把握と、その導入過程に関わる地域マネジメントを、政策現場に即して理論づける。

3. 研究の方法

本研究課題においては、下図のように、資源開発・流通管理・人材調達の3つの工

程を統合したものとして、地方農山村の知識経済化の政策枠組みを整理する。これに対応して、地域資源の創造的活用、ローカル流通システムの再構築、人材・担い手の育成の3つの研究領域を設定し、は市原(バイオマス資源の産業化)と平田(地域ブランド)は伊賀(ローカルフードシステム)は安嶋(輪島漆器産業の再生)と佐無田(異業種連携の事業創出)が担当した。基本的な分析方法は、研究領域ごとに地域の事例の実態調査を行い、地域資源を活用した事業を実現するための諸工程ごとの課題を抽出した。



4. 研究成果

(1) 地域資源の創造的活用

市原は、石川県白山麓を事例にして、絶滅の危惧されるイヌワシの生息環境の回復と木質燃料導入を連動させる実態的研究を行った。地元に関係者との研究会を組織し、木質燃料導入の先進地との比較を通じて、当該地域の地域資源利用の可能性を検証した。地域比較を通じて、白山麓地域は西粟倉型の小規模投資・加工費用最小の事業形態を参考にすべきことを確認した上で、急傾斜地で相対的に気温が低く、林道整備状況が悪く、素材供給業者・木材加工業者の多くがすでに失われているといった白山地域の条件に留意して、小規模皆伐型の木質燃料生産とそれによるイヌワシ生息環境再

生のような生態系管理を結合するモデルを提起した。

これと連動して平田は、農畜産物の高付加価値化・6次産業化の際に不可欠な課題となる地域ブランドについて研究を行った。ブランドの排他性の観点から「商標」の登録制度、「地域団体商標」の内容と制度的狙い、「地理的表示」の保護制度など、いわゆる「地域ブランド」に対する法制度的な保護の仕組みについて分析を行った。その結果、地域ブランドのコアを明確化する戦略性と、地域に限定された産品であればあるほど売上げが伸びてくると原材料供給が追いつかなくなる問題に対して、その価値を損なわない供給体制やメンテナンスの必要性を明らかにした。

(2) ローカル流通システムの再構築

伊賀は、「それまで地域に存在していなかった食料」の供給体系を新たに生み出し、他地域との差別化を目指す地域振興戦略に着目し、石川県穴水町におけるワイン専用種ブドウの供給体系とワイン生産を実現したプロセスを実証研究した。知識・技術の地域外からの持ち込みによるローカルフードシステムの再構築という観点から、原料ブドウの供給に向けたアクター（人間・自然物・技術）間のネットワーク形成を分析した。これによって、ローカルアクターが自らのネットワークを空間的に拡張することで（北海道のワイン生産者との関係性）もともと地域に存在していない知識・技術を獲得し、それらを具体的な生産実践へと結びつける過程で、生産地域を取り囲む自然環境への知識・技術の埋め込み（＝知識・技術の調整）を行うことを明らかにした。

(3) 人材の調達・育成

安嶋は、石川県輪島市における漆器産地の再生を課題として、漆器産業のアンケート調査分析と、サプライチェーン再構築を企図した漆生産再生のための学習過程を検

証した。調査の結果、売上げの伸び悩み、材料費の高騰、賃金の高騰といった課題に対して、オーダーメイド、新用途や新素材の開拓、異業種交流への参加などの取り組みが多くなっていることが明らかになった。統計的な解析を通じて、若い人ほど生産性を伸ばす傾向があり、自社によるデザインや展示会やインターネットを取り入れている企業で生産性が高い傾向が見られた。この分析結果を踏まえて、輸入品依存になっていた漆の地元生産体制構築を目指して、「輪島うるし塾」を開講し、関係者の学習の場づくりの効果を検証した。

佐無田は、石川県七尾市を事例に、産学官連携の地域的実験の政策工程を検証した。これまで農村の内発的発展の研究が主に先進事例からの帰納法であったのに対して、それぞれ自分たちの地域では具体的にどのような政策手順を踏めばよいかを明らかにするために、実際に七尾市での域学連携プロジェクトを組織し、政策実現プロセスを検証した。まず、七尾市の産業構造上の課題を、地域産業連関表を作成して定量的に診断し、この分析に基づいて戦略テーマごとに、市場データ、業界動向、訪問調査等正確な実態把握、地域の関係者による学習コミュニティの形成、関係者間の合意形成と実験事業の展開、地域資源と需給バランスに応じたサプライチェーンの調整、といった政策工程が一定の有効性を示すことを明らかにした。

(4) 総括

本研究によって、地方農山村における知識経済化の手順の解明に実証的に寄与することができた。本研究の実証研究の特徴は、特殊な先進事例の調査ではなく、地元石川県における相対的に後発的な取り組み事例を取り上げ、内発的発展の蓄積がない地域であっても、地域資源を活かした地域振興にどこから取り組めばよいのかという政策

手順を検証したことにある。 地域資源の創造的活用、 ローカル流通システムの再構築、 人材の調達・育成の3つの課題領域に対応して、それぞれ実態の把握、先進事例との比較、地域外部からの知識の導入、関係者の合意形成、実験的な事業の実施、担い手となる人材の訓練といった諸工程があることが明らかになった。いずれの事例研究でも政策工程はかなり重なりあっており、一般化されうる要素で構成されることが示唆された。今後は、こうした地域政策デザインの広がりとう有効性の条件を詰めていくことが課題となる。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計21件)

1. 佐無田光、垂直的国土構造の危機と地方都市の再生、環境と公害、45巻2号、査読無、2015、55-60、DOI 無
2. 佐無田光、産業連関分析を活用した地域産業振興政策の可能性 七尾市産業・地域活性化懇話会の事例を通じて、地域政策研究年報 2015、査読無、2016、92-97、DOI 無
3. 佐無田光、北陸新幹線の開通と地域経済への影響、経済科学通信、138号、査読無、2015、9-14、DOI 無
4. 佐無田光、現代日本の過疎問題と農村再生の地域連携アプローチ、CURES、103号、査読無、2014、10-14、DOI 無
5. 佐無田光、日本の国民経済システムと東京経済の変化、地域経済学研究、28号、査読無、2014、10-25、DOI 無
6. 伊賀聖屋、能登地域における原料ブドウ供給体系の形成 知識・技術の構築に着目して、地域政策研究年報 2015、査読無、2016、73-83、DOI 無
7. 伊賀聖屋、ローカルフードシステムの生成 能登産ワインの生産事業、地域政策研究年報 2014、査読無、2015、75-88、DOI 無
8. IGA Masaya、Evaluating the Economic Recovery of Post-Tsunami Aceh Province: Spatial Restructuring of Shrimp and Fish Supply Chains、Proceedings of the 5th Biannual International Conference on Aceh and Indian Ocean Studies (ICAIOS) UIN Ar-Raniry Campus, Banda Aceh、査読有、2014、6 pages in CD-R、DOI 無
9. IGA Masaya、Changing agri-food systems in the global economy、Japanese Journal of Human Geography、査読有、2014、552-564、DOI 無
10. 伊賀聖屋、ローカルフードシステムのオルタナティブ性、地域政策研究年報 2013、査読無、2014、45-48、DOI 無
11. 伊賀聖屋、大規模酒造業者と酒米生産者の提携関係、地域公共政策研究、査読無、2013、101-105、DOI 無
12. 安嶋是晴、輪島漆器産地における昭和30年代の漆掻き職人衰退要因とその背景 輪島の漆掻き職人経験者のヒアリングから、地域公共政策研究、23号、査読有、2015、79-89、DOI 無
13. 安嶋是晴、輪島漆器産地振興のためのトータルシステムの構想、cures、101号、査読無、2013、14-16、DOI 無
14. 安嶋是晴、輪島漆器産地の伝統的販売戦略の意義と課題 行商と椀講制度、国際文化政策、4号、査読有、2013、7-13、DOI 無
15. 安嶋是晴、日本の伝統文化を支える里山、自然人、No.38、査読無、2013、23-24、DOI 無
16. 市原あかね、木質エネルギー生産を軸とする多品種少量生産型地域経済の可能性：白山ろくにおけるエコロジカルな創造的地域経営の提案、地域政策研究年報 2015、査読無、2016、80-85、DOI 無

17. 市原あかね、イヌワシとの共生を目指すエネルギー転換の構想、地域政策研究年報 2014、査読無、2015、49-53、DOI 無
18. 市原あかね、林業生産をめぐる全国と石川の動向：木質燃料生産を中心に、地域政策研究年報 2014、査読無、2015、54-63、DOI 無
19. 市原あかね、出作り（焼畑）等とイヌワシと共生する山林利用、地域政策研究年報 2014、査読無、2015、64-70、DOI 無
20. 平田透、地域ブランドの課題、地域政策研究年報 2015、査読無、2016、86-88、DOI 無
21. 平田透、地域ブランドの課題、CURES、103号、査読無、2014、8-10、DOI 無

〔学会発表〕(計 15 件)

1. Samuta, Hikaru, East Asian Capitalism and Japanese Regional Policies: A Crisis of the Centralization Model, International Symposium on a New Paradigm for Regional Development (3rd KARP International Symposium), 10th Sep 2015, Incheon, Korea
2. 佐無田光、東アジア資本主義の変化と北陸経済の課題、第 30 回日韓経済経営国際学術会議、金沢歌劇座、2015 年 8 月 16 日
3. 佐無田光、七尾市産業連関分析と七尾市産業・地域活性化懇話会、第 57 回自治体学校第 7 分科会「地域循環型経済と地域づくり」、金沢大学、2015 年 7 月 26 日
4. 佐無田光、現代日本における過疎問題と都市-農村関係の再構築、国際シンポジウム「過疎地域の現状と再生策に関する国際比較 東アジアの状況を軸に」、金沢市文化ホール、2014 年 12 月 20 日
5. 佐無田光、日本の国民経済システムと東京経済の変化、日本地域経済学会第 25 回東京大会、駒澤大学、2013 年 12 月 1 日
6. 伊賀聖屋、社会・自然・技術ネットワークと食料の生産空間、日本地理学会春季学術大会、早稲田大学、2016 年 3 月 22 日
7. 伊賀聖屋、エビ養殖をめぐる技術・自然・社会のネットワーク、経済地理学会中部支部例会、中部大学、2015 年 12 月 19 日
8. 伊賀聖屋、ローカルフードシステムの生成 能登産ワインの生産事業、日本地理学会秋季学術大会、愛媛大学、2015 年 9 月 19 日
9. Iga Masaya, Evaluating the Economic Recovery of Post-Tsunami Aceh Province: Spatial Restructuring of Shrimp and Fish Supply Chains, The 5th Biannual International Conference on Aceh and Indian Ocean Studies, シアクアラ大学(バンダアチェ, インドネシア)、2014 年 11 月
10. 高橋 誠・伊賀聖屋、インド洋大津波後のアチェにおけるエビ養殖業の復興状況、日本地理学会秋季学術大会、富山大学、2014 年 9 月 20 日
11. Takahashi, M, Iga, M., Restoration or ongoing structural changes? Food production in the post-tsunami Aceh, Indonesia, Nagoya University International Scientific Meeting, Nagoya University, 23rd Feb 2014
12. 安嶋是晴、輪島漆器産地における工房めぐりシステムの構築の現状と課題、北陸地域政策研究フォーラム、富山大学、2016 年 3 月
13. 安嶋是晴、輪島漆器産地調査からみた産地の変化の今後の展望」実践経営学会北陸支部会、金沢市文化ホール、2015 年 8 月 7 日
14. 安嶋是晴、輪島漆の現代的再生と地域活性化 輪島の漆掻き職人の実態調査から」漆サミット 2013 in 輪島、輪島漆芸研修所、2013 年 11 月 17 日
15. 安嶋是晴、輪島漆器の販売戦略の現代的評価」実践経営学会北陸支部会、金沢市文

化ホール、2013年7月27日

〔図書〕(計8件)

1. 佐無田光、日本評論社、エネルギー転換と地域経済 国際比較の視点から、諸富徹編著『再生可能エネルギーと地域再生』、2015、25-53
2. 佐無田光、東京大学出版会、現代日本における農村の危機と再生 求められる地域連携アプローチ、寺西俊一・山下英俊・井上真編『自立と連携の農村再生論』、2014、7-43
3. 伊賀聖屋、海青社、食のグローバル化とローカル食料供給体系、浅野敏久・中島弘二編『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第5巻 自然の社会地理』、2013、205-226
4. 伊賀聖屋、フードネットワーク論、荒木一視編『食料の地理学の小さな教科書』ナカニシヤ出版、2013、87-98
5. 山崎茂雄・安嶋是晴・浅沼美忠・野村康則 水曜社『町屋・古民家再生の経済学』2016年3月、全142頁
6. 市原あかね、自治体研究社、林野利用をめぐる白山ろくの現状と展望、いしかわ自治体問題研究所『平成合併を検証する 白山ろくの自治・産業・暮らし』、2015、75-101
7. 野中郁次郎・廣瀬文乃・平田透編、千倉書房、実践ソーシャルイノベーション、2014、全320頁
8. 平田透・成田康修・中川有希子編、ナカニシヤ出版、レジリエント・マネジメント、2014、全219頁

〔産業財産権〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐無田 光 (SAMUTA, Hikaru)

金沢大学・人間社会研究域・教授

研究者番号：80345652

(2) 研究分担者

伊賀 聖屋 (IGA, Masaya)

名古屋大学・環境学研究科・准教授

研究者番号：70547075

安嶋 是晴 (YASUJIMA, Yukiharu)

金沢大学・人間社会研究域・助教

研究者番号：40401880

市原 あかね (ICHIHARA, Akane)

金沢大学・人間社会研究域・助教

研究者番号：80235572

平田 透 (HIRATA, Toru)

金沢大学・人間社会研究域・助教

研究者番号：10249138